

# 事例13： 静岡済生会療育センター令和（静岡県）の取り組み

## 「病棟業務と入院児童の生活支援を実施し、看護師の負担軽減に協力できた」

### 概要

- (状況) 入院児16名＋職員26名（計42名）のクラスターが発生した。
- (支援) 期間は1月8日～26日（30日終息宣言）で主に理学療法士・作業療法士が看護スタッフにかわり児童の生活支援を行った。介入後、一週間後にはコロナエリア内にも支援を広げた。
- (結果) 児童に対し平常時に近い生活の提供が出来た。心身のストレス緩和に関わられた。加えて病棟スタッフとの連携体制が一層強化されクラスター終息後も支援に関する連携が深化向上した。看護部から高評価を受けた。

### コロナ対応病棟での支援

8日～15日は、PCR陰性児童のエリアのみ、16日～26日は、コロナエリアを加えた2グループ編成で支援にあたった。

- ・ 食事援助（食事介助）
- ・ 排泄援助（おむつ交換・トイレ誘導及び介助）
- ・ 移動介助及び体位変換、ポジショニング
- ・ 環境調整（消毒や清掃業務、防護具の補充、物品搬送、Bed making等）
- ・ 当直（児童の就寝準備、夜間の見回り、検温、朝の着替え、朝食介助等）

### その他の支援

業務に並行して、PCRは陽性であるが無症状の児童やコロナの症状が改善した児童に対しては、医師に許可（処方）を得て理学・作業療法を実施した。結果、運動機能の低下を回避できた。今回の支援では、1日あたり12～15人のリハスタッフに係わった。

### 病院プロフィール

- 病院の機能説明：  
総合病院内の療育に特化した外来診療と入院診療で、機能訓練サービスを提供できる。医療型障害児入所施設でもある。
- 病床数：60床
- コロナ患者対応：平常時には療育分門ではコロナ対応はなし
- 感染対策の教育：  
院内医療安全講習（前期・後期）  
感染対策講演会（手指消毒  
防護服の着脱等）